

目的 衣服着用中に生じるしみは、気がつかないうちに付いていることが多く、また何が付いているかわからないことも多い。しみのため着用不可能になる衣服もあり、しみ抜きを適切に行うことは重要である。日常生活上生じる各種しみについて、しみぬき剤と洗剤を用い、手によるしみ抜きと機器を用いた場合の、しみの付着日数に対するしみ抜き効果について検討する。

方法 飲み物、食品、日用品など 29 種類のしみを綿布につけ、しみ抜き剤 4 種類と洗剤を用い、もみ洗いでしみ抜きを行う。汚染用グレースケールを用い、肉眼判定にてしみの脱落程度を求める。60 日まで経過した場合について検討する。また、16 種類のしみを選び、同じしみ抜き剤と洗剤で、ターゴトメーターを用いしみ抜き実験を行う。8 日間までのしみの脱落率を、反射率測定から求める。

結果 しみの種類によりその脱落程度にはかなり差がみられた。各種しみに対するしみ抜き剤の効果では、飲み物、食品のしみは落ちやすく、日用品、その他のしみは落ちにくい傾向がみられた。4 種類のしみ抜き剤の効果にはかなり違いがみられるため、しみ別にしみ抜き剤を選択できるとよい。しみは付けた直後に落とすと効果が著しく、全体的には日数が経過するほど落ちにくくなる傾向がみられた。